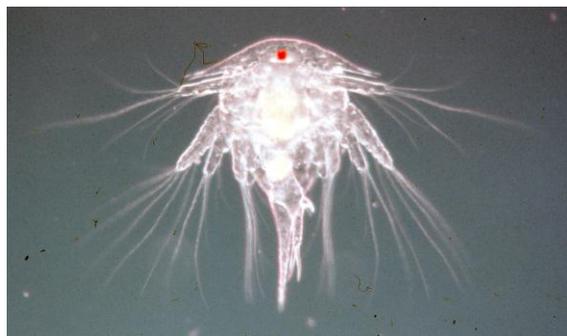


自然遊学館 だより

2012 SUMMER

No.64



フジツボ類のノープリウス幼生
和歌山県加太、1972年11月23日
上田 稔さん採集・撮影

貝塚市二色在住の上田稔さんが1960～70年代に大阪湾や和歌山県沖、大阪府下の池で採集・撮影した海洋・淡水プランクトン写真をもとに、今夏の特別展を開催中です。

2012.8.15 発行 貝塚市立自然遊学館

目 次

*ネイチャーレポート

市民の森周辺の鳴く虫 2011 ……岩崎拓… 1

鳥たちの世界のヘルパー制度 ……石毛久美子… 3

*行事レポート

生きもの切り絵製作会 ……川村甚吉… 3

第7回切り絵展 ……川村甚吉… 5

春の葛城山登山

……岩崎拓・湯浅幸子・西澤真樹子… 7

渚の生きもの ……山田浩二… 8

自然を食す I ……川村甚吉… 10

二色の浜 稚魚放流 ……山田浩二… 11

*館長コーナー

遊学館に想う II ……高橋寛幸… 12

*調査速報

千石荘昆虫調査(2012年4月-6月) ……岩崎拓… 14

*泉州生きもの情報

シロヒナノチャワソタケ ……岩崎拓… 16

腹びれの無いグレ ……山田浩二… 17

*寄贈標本の紹介 …… 18

*スタッフ日誌 …… 22

*お知らせ …… 23

ネイチャーレポート

市民の森周辺の鳴く虫 2011

自然遊学館がある貝塚市二色の市民の森公園では、毎秋に館主催の鳴く虫の声を聞く行事が行われてきました。2008年9月13日の行事ではタイワンエンマコオロギの鳴き声を聞き、採集することができました（本誌49号）。大阪府下では元々、岬町の海岸沿いに分布していて、泉南市と田尻町でも確認され（柳原、2008：南大阪の昆虫 vol.10:39）、2008年の時点では、貝塚市が大阪府での分布の北限になっていました。本稿では2011年に行った市民の森周辺の鳴く虫調査の結果、および2011年までのタイワンエンマコオロギの動向を報告します。

1. 調査地と調査方法

市民の森～二色の浜～市民の森～人工島～二色パークタウン～市民の森の約9kmの周回コースを設定し（図1）、2011年3月から12月までのほぼ毎週の日没後に、約100分かけて歩くか軽走しながら鳴く虫の声を聞き、種と個体数を記録しました。市民の森は貝塚市が管理する公園の名称ですが、ここでは二色の浜公園の野球グラウンドおよび脇浜潮騒橋の上流右岸側にある芝生の丘も含めています。

途中で種が分からない鳴き声を聞いた場合は、市民の森に着いた時に自然遊学館に戻り、パソコンネット上で「虫の音ワールド (<http://mushinone.sakura.ne.jp/>)」というサイトを開き、音合わせを行いました。

た。ただ、すべての鳴き声を種まで同定できたわけではありません。

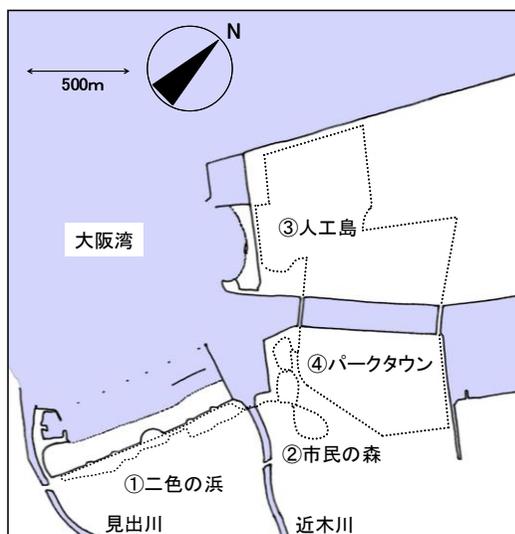


図1. 鳴く虫調査のコース

2. 鳴く虫の種類

周回コース全体では26種の鳴き声を確認することができました。科ごとの内訳は、キリギリス科7種、ツユムシ科2種、コオロギ科8種、マツムシ科3種、ヒバリモドキ科4種、カネタタキ科1種、ケラ科1種です。区間ごとでは、二色の浜19種、市民の森21種、人工島22種、二色パークタウン13種となりました（表1）。

市民の森のキリギリスは芝生の丘のものなので、行事のコースからはやや離れています。キンヒバリは水辺を好む種で、周回コース中では市民の森の自然生態園「トシボの池」だけで確認されています。行事の際に残念なのはマツムシで、二色の浜と人工島にはいるのに、その間の市民の森にはいらず、行事の時にチンチロリンを聞くことはできません。市民の森はまだ人工的な

環境すぎるのかもしれませんが。いつか市民の森にも移動して定着して欲しいと願っています。

初夏に鳴く種がいるからです。これらの鳴き声は残念ながら9月の行事の際には聞くことができません。

表1. 市民の森周辺で確認された鳴く虫 (2011年)

| 種名 | 二色の浜 | 市民の森 | 人工島 | パークタウン |
|-----------------|------|------|-----|--------|
| 1 ヤブキリ | ○ | ○ | ○ | |
| 2 キリギリス | | ○ | | |
| 3 ヒメギス | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 4 シブイロカヤキリ | | | ○ | |
| 5 クビキリギス | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 6 ホシササキリ | | ○ | ○ | ○ |
| 7 ウスイロササキリ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 8 ツユムシ | ○ | | | |
| 9 サトクダマキモドキ | | ○ | | |
| 10 エンマコオロギ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 11 タイワンエンマコオロギ | ○ | | ○ | |
| 12 タンボコオロギ | ○ | ○ | ○ | |
| 13 ハラオカメコオロギ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 14 ミツカドコオロギ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 15 ツツレサセコオロギ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 16 ナツノツツレサセコオロギ | | ○ | ○ | |
| 17 コガタコオロギ | ○ | ○ | ○ | |
| 18 マツムシ | ○ | | ○ | |
| 19 アオマツムシ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 20 ヒロバネカンタン | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 21 キンヒバリ | | ○ | | |
| 22 カヤヒバリ | | | ○ | |
| 23 マダラスズ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 24 シバズ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 25 カネタタキ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 26 ケラ | ○ | ○ | ○ | |
| 種数 | 19 | 21 | 22 | 13 |

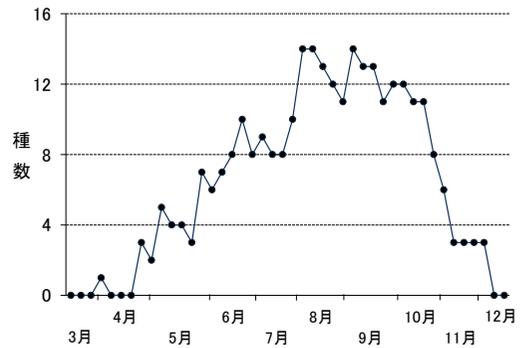


図2. 市民の森周辺の鳴く虫の種数の季節変化 (2011年)

二色の浜～市民の森～人工島～二色パークタウン

4. タイワンエンマコオロギの動向

2011年の調査では二色の浜と人工島でタイワンエンマコオロギの鳴き声を確認できました(表1)。と言ってもたったの5回だけなのです。確認場所から考えて、おそらく2個体だけだと思います。2010年にも5回(3個体)だけでした。タイワンエンマコオロギは幼虫で越冬し初夏と秋に成虫が出現する年2世代の生活史を送ります。その初夏の方では2010年も2011年も鳴き声を聞かず、秋しか鳴き声を聞きませんでした。現状では、貝塚市は定着地ではなく、より南の定着地から移動してきて秋だけ出現しているのかもしれませんが。2008年に初めて確認された時には、分布の北限があっさりと貝塚市を通過していくと思っていたのに、足踏み状態が続いているのかもしれませんが。

(岩崎 拓)

3. 鳴く虫の種数の季節変化

鳴く虫は秋の風物詩ですが、秋だけのものではありません。図2には、周回コース全体で確認された鳴く虫の種数の季節変化を示しました。8月と9月に種数のピークがありますが、春と冬にもいて、初夏にも意外と多く確認されています。それはナツノツツレサセコオロギ、タンボコオロギ、コガタコオロギといった幼虫で越冬して

鳥たちの世界のヘルパー制度

春になるとツバメやカラスたちが巣作りを始めます。以前に自然遊学館にも館の入り口のところにツバメが巣作りをしていました。とても稀で吉兆と言われている白いツバメが雛として巣立っていったこともあります。その玄関のツバメが自分の子供以外の雛を手伝って子育てをしました。このような行動は鳥の世界では子育てを手伝ってくれるヘルパー制度と呼ばれます。



自然遊学館前のツバメの巣（2009年6月撮影）

ヘルパーとは利他的行動^{りたてきこうどう}の一種で、自分以外への生き物へ「自己を犠牲にするかのように」子供を育てるのを手伝う行動のことを言います。

人間が子供を育てるときに千葉県のある地域では「子持ちしたて」といって赤ちゃんが大きくなるのをおばあちゃんが一緒に暮らして子育てを手伝います。そのように雛がある程度大きくなるまで同じ兄弟の若い個体が育雛^{いくすう}を手伝う行動のことを言います。

血縁関係^{けつえんかんけい}がある鳥たちが繁殖^{はんしよくせいこうど}成功度を高めるために、この制度が鳥類の間に広まっていると考えられています。

例えば、信州大学の中村浩志先生の研究でオナガがヘルパーを利用する行動が研究されています。カラス類なども利用するようです。鳥類全体には多くのヘルパーを使う研究例がみられます。

ツル類が高緯度^{こういど}で繁殖するときには不眠不休^{ふみんふきゅう}で雛に餌をあげ続けるそうです。そういう時にもヘルパーの存在があったら多くの雛を無事に成鳥まで育てる事が出来ます。お互いに良い関係だと言えるのではないかと思います。

ツバメたちが巣を作っているな？と観察したらその巣の鳥たちの行動をよく見てはどうでしょう？びっくりするような観察例が見つかるかもしれませんね。

（埼玉県入間市 石毛 久美子）

行事レポート

生きもの切り絵製作会

日時：2012年4月8日（日）13:30～15:45

場所：自然遊学館多目的室

目的：生き物を切り絵にすることで生き物に対する観察眼と、自然愛護の精神を育てる。

参加者：① 初めて→9人

② 1～3回→4人

③ 4回以上→9人

手法：指導手本のコピーをカッターで切り込みスプレーのりで仕上げる。

教材：①→イシダイ、カメ、ワタリガニ、
エビ、ハネ
②→フクロウA
③→フクロウBまたはC

今回で、切り絵製作会は 13 回となります。上の参加者の項の通り、初めての方、1～3 回の経験のある方、4 回以上の方がおられ、指導する側としては、緊張しました。



館長挨拶

まったく初めての方たちには、カッターの使い方、ケガの防止などをはじめとし、切り絵の仕組みを説明しました。

どの参加者も創作は無理ですので、指導画（私作）をコピーし、ケント紙にはりつけ、コピーとケント紙を同時に切ります。切り終わったら裏から台紙を張り付けると完成です。

初めての経験は、どうしてもカッターで切り離せず、無理に引っ張ったり、ちぎったりすることが多く、切り絵本来のシャープな線がなくなってしまうがちです。しかし、今回の方たちはみんなきれいな線を出していました。



製作風景

1 回でも経験したことのある方には、フクロウを製作してもらいました。フクロウは 4 種類用意し、受講生に選んでももらいました。これもまた、全員が鋭い切り口で、見事な作品になりました。



お疲れ様でした

完成した作品を見て、互いに合評しあい、終了となりました。切り絵製作によって、自分の作品を鑑賞し、機会があれば、その素材となった生き物をより詳しく観察してくれることを期待しています。

(川村 甚吉)

第7回切り絵展

期間：4月13日（金）～5月14日（月）

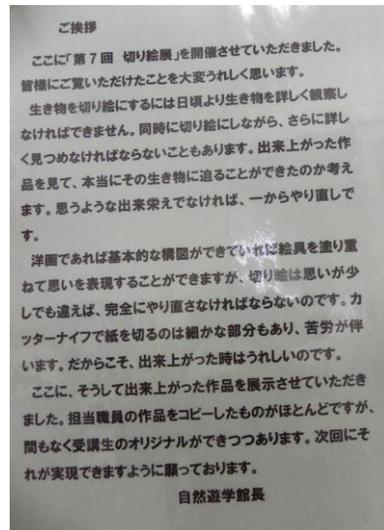
場所：自然遊学館多目的室

特別展示会場（元関空交流館）

目的：切り絵製作会等で作った作品を出し合い、互いに合評しながら、生き物を見る力を高める。また、それを鑑賞することによって、生き物への関心を高める。

出品者：石井千佳、石井ときあ、谷口直治、土原かずよ、津野とものり、津野あゆみ、津野ひなの、津野小菊、畑文代、西浦廣子、藤木恵美子、新谷征二、新谷高子、池宮孝一、池宮くみ子、寺田明德、清水笙子、藤原初美、佐藤幸子、澤秀史、坂原繁美、川村富美代、宮崎としみ（敬称略）

品が圧倒出来に増加しました。最大一人5点としました。24人計83点が出品されたのです。それに加えて私の参考作品15点でしたから百点近くを展示したことになります。



入口挨拶

当館の事情で、途中で元関空交流館の展示会場に移動しました。事前・事後の周知が十分でなかったため、遠くから来られた方に無駄足を踏ませてしまったことになりました。

参観された方の感想は後の項で主なものを載せていますが、中でも、田尻中学校美術部が顧問の先生と見学に来られ、温かいメッセージを寄せてくれました。

また、問題点はあったものの、元関空交流館での展示は見事なものになりました。出品者の関係の方が大勢で来られたと聞いております。自然遊学館の活動とその成果が理解して頂けました。さらに、自然の仕組みや生き物を大切にする心の育成の



「切り絵」で作ったポスター

概要

4月13日に自然見遊学館多目的室にて特別展を開催しました。今回で第7回になりました。年度1回の開催ですから7年目となった訳です。第6回との違いは受講生作

一助になれたことをこの特別展でも強く感じることが出来ました。



作品展の様子

アンケートから

- ・どれもこれもとてもすてきでした。私も見ているだけで胸がわくわくドキドキします。
- ・ジェイコムの番組で見て早速見学にきました。とても細かい作業で感心致しました。これからもがんばってください。
- ・・・・こないだは閉館していたので2回目です。今日は田尻中学校美術部4人と一緒にきました。色々な技法があつて、とても刺激になりました。やはり、みたものを見たように表現するのが基本だと改めて感じることが出来ました。ありがとうございました。

いました。(記名)

・・・今回、みなさんの素晴らしい切り絵を見させて頂きありがとうございました。すべて繊細で、何より作品に対する集中力と情熱を感じ、とても刺激になりました。あまり、切り絵に興味はなかったのですが、色々なジャンルの絵を見ることが経験なんだと感じました。本当にありがとうございました。(記名)

・・・黒の紙を切り抜いて、白の紙を貼っているのは、黒と白しかないのに切り絵を見ていると自然と風景が頭の中に浮かんできて、その風景が目には焼き付けられました。私も頑張りたいと思いました。これからもがんばりましょう。

- ・作品はたくさん出展されていていいと思いますが、同じ作品が多いのが気になりました。
- ・大変すばらしい作品を見せていただきました。来年も楽しみにしています。
- ・習ってみたい。・・・
- ・フクロウの切り絵が一番かわいいと思いました。全部うまく、家に飾りたいです。
- ・税金の無駄遣い
- ・(その他多数の感激や賞賛の言葉あり)

次回に向けて

- ・開催場所と開催日時の周知徹底を図る。
- ・指導者のコピーから受講者のオリジナル作品ができること。

(川村 甚吉)

春の葛城山登山

日時：2012年4月28日(土) 10:00～16:20

場所：蕎原～和泉葛城山

参加者：10人+スタッフ4人

昨年は春秋のハイキングと近木川源流探検の3つの行事がすべて雨で中止になるという、雨の神様に魅入られたような年でした。それが今年は春の登山から快晴に恵まれ幸先の良いスタートを切ることが出来ました。樹々の若葉色がいかにも鮮やかです。

とは言え、和泉葛城山の登山道Bコースは難コースとは行かないまでも、甘いコースでもありません。距離にすれば片道約4kmですが、標高差は蕎原の220mから山頂の858mまで約640mあります。

「最初の沢沿いの登りで体力を使い切らないで」、「帰りの箱谷コースの長い階段まで体力を温存して」と言っても、枇杷平から続く長くゆるい登り坂が体力を奪います。下見をしているスタッフと違って、特に初めて挑戦される方は、これからどれだけ苦しみが続くのかと不安になったと思います。



登山道Bコース登りの様子

途中、珍しいコショウノキなどを説明しながら3時間かけて登り切り、山頂のデッキで昼食をとりました。山頂の気温は18℃とやや高めながら、湿度が低く、林内を吹く風はとても気持ちの良いものでした。

昼食後、ブナ林内の遊歩道を散策してからBコースを下り、分岐点からはBコースを離れ、箱谷ルートを通りました。新しく作られた箱谷ルートには約600段の長い階段があり、それを下り切ると、いわゆる「膝が笑う」という状態になりました(高橋館長は人員配置の都合で、この階段を1往復半することになったのでした)。

登りで「しんどい」と言っていた子どもも、下りではつまずいた大人に「大丈夫ですか」と声を掛けるほどになっていました。山に登り切って自信がついたのかもしれませんが、この行事を企画して一番うれしかった場面でした。

行事レポート恒例の生きものの報告を以下に書きます。昆虫担当が一番バテていたので、昆虫の記録はわずかです。

哺乳類 ウサギ食痕

鳥類 ヤマガラ、キジバト、ヒヨドリ、カワラヒワ

爬虫類 ニホントカゲ、カナヘビ

両生類 タゴガエル

昆虫 ムネアカオオアリ、クロヤマアリ、アメイロアリ、ビロードツリアブ、キイロナミホシヒラタアブ、オオクロバエ、メマトイの仲間、アリゾククの間、ハルゼミ鳴き声(1匹だけ鳴いていました)、スジグロシロチョウ

植物(説明したもの) ブナ、ウバメガシ、コショウノキ、ミヤマシキミ、シハイスマレ、タチ

ツボスミレ、ヤドリギ、リョウブ、ハナイカダ、ヤマモモ、コハウチワカエデ、ミヤコザサ、モチツツジ、スギ、ヒノキ、ヒカゲノカズラ

菌類 シロヒナノチャワンタケ(ブナの殻斗から)、タンポタケ(ツチダンゴ類から発生)、ベニタケ属の一種、キシメジ科の一種



タンポタケ

麦角菌科 冬虫夏草属 ツチダンゴ類(下の丸い部分)から発生する菌生菌

和泉葛城山登山道Bコース合流点付近

2012年4月28日、西浦いちかさん採集・寄贈

蕎原バス停付近 ツバメ、ニホンアマガエル、キイロスズメバチ古巣、ムベ、キランソウ、ウマノアシガタ

野井谷池付近 ウシガエル、コイ、オオチャワンタケ(捨てられた量から)

秋にも葛城山登山を企画しています。秋のBコースおよび山頂のブナ林の景観は、またがらりと違ったものになっているはずです。ぜひご参加ください。

(岩崎 拓・湯浅 幸子・西澤 真樹子)

渚の生きもの

日時:2012年5月20日(日)12:00~15:00

場所:近木川河口

参加者:62人+スタッフ9人

例年、この自然観察会は午前二色浜南端で、午後近木川河口で行って来ましたが、今年は近木川河口のみで観察会を行いました。潮のひく時間の関係で、正午に参加者の方々に集合していただきました。講師には大阪府立環境農林水産総合研究所水産研究部の日下部敬之さんにお越しいただきました。

前半は、自由に生きもの採集を約1時間行いました。礫をめぐり返すとケフサイソガニ類がざわざわと動き出すのを「あっ、カニだ!」と捕まえている親子が多かったのですが、タモ網で捕まえられたモクズガニの姿を目にした子供たちは、その大きな姿、迫力に目が釘付けになっているようでした。モクズガニは結構多く採集され、合わせて10匹くらいでしたが、一番多くの種数が採集されたのは貝類でした。その中でも近木川河口ではあまり目にしないウミニナが1個体採集され、まだ稚貝のサイズでしたが貴重な標本となりました。

また、サポートスタッフの鈴子佐幸さんはマガキのついた石を丁寧に調べ、微小な巻貝のカキウラクチキレモドキや近木川河口では初記録と思われるゴマツボを採集しました。



近木川河口での観察会の様子

後半は地曳網を行いました。波打ち際から、長さ 50m のロープいっぱいまで沖合に網を運び、みんなで力を合わせて引っ張りました。結果、網にかかったのは、スズキ 4 匹、ボラ 1 匹、ミズクラゲ 1 匹という不漁でした。ここ数年、近木川河口での 5 月の地曳網は不漁傾向が続いています。

今回の観察会で確認できた海岸動物のリストを右に記します。この観察会は第 5 回大阪湾生きもの一斉調査を兼ねていましたので、最後に参加者のみなさんにアンケートを記入して頂き、終了しました。



ウミニナ

近木川河口 2012 年 5 月 20 日採集
(殻径 8 mm、殻高 18.5 mm)

近木川河口で観察した海岸動物

2012年5月20日

| グループ | 和名 |
|----------------------|-----------------------------|
| しほう どうぶつもん 刺胞動物門 | はなむしこう 花虫綱 |
| | イソギンチャク目 タテジマイソギンチャク |
| | イシワケイソギンチャク? |
| ハチムシこう 鉢虫綱 | 旗口クラゲ目 ミズクラゲ |
| なんいどうぶつもん 軟体動物門 | ふくたこう 腹足綱 |
| | クサズリガイ科 ヒザラガイ |
| | ツタノハガイ科 マツバガイ |
| | ニシキウスガイ科 インダタミガイ |
| | コシダカガンガラ |
| | アマオブネガイ科 イシマキガイ |
| | タマキビガイ科 アラレタマキビ |
| | タマキビ |
| | マルウスズタマキビ |
| | ヌノメチョウジガイ科 ゴマツボ |
| | ウミニナ科 ウミニナ |
| | アツキガイ科 イボニシ |
| | トウガタガイ科 カキウラクチキレモドキ |
| | 有肺垂綱 カラマツガイ |
| にいがいこう 二枚貝綱 | イガイ科 クログチ |
| | ムラサキイガイ |
| | ホトギスガイ |
| | イタボガキ科 マガキ |
| | チドリマスオガイ科 クチバガイ |
| | フナガタガイ科 ウネナシトマヤガイ |
| | マルスダレガイ科 アサリ |
| かんいどうぶつもん 環形動物門 | たもう こう 多毛綱 |
| | カンザシゴカイ科 ヤッコカンザシゴカイ |
| | カンザシゴカイ類 |
| | イソメ科 イワムシ |
| せつどうぶつもん 節足動物門 | せつあしこう 顎脚綱 |
| | イワフジツボ科 イワフジツボ |
| | フジツボ科 シロスジフジツボ |
| | ミョウガイ科 カメノテ |
| なんこう 軟甲綱 | 端脚目 ヨコエビ類 |
| | ホンヤドカリ科 ユビナガホンヤドカリ |
| | ケアシホンヤドカリ |
| | テナガエビ科 ユビナガスジエビ |
| | モクスガニ科 モクスガニ |
| | ケフサイソガニ |
| | タカノケフサイソガニ |
| | ヒライソガニ |
| せききく どうぶつもん 脊索動物門 | こっこ ぎょこう 硬骨魚綱 |
| | ボラ科 ボラ |
| | スズキ科 スズキ |
| | メジナ科 メジナ |
| | ハゼ科 アベハゼ |
| | ミミズハゼ |
| | ウキゴリ属 |
| | チチブ |
| | フグ科 クサフグ |

(山田 浩二)

自然を食す I

日時：2012年5月27日(日) 12:00～14:30

場所：自然遊学館特別展示会場 2階

参加者：20人

目的：初夏の自然の恵みを食し、自然に親しむと共に、初夏の自然について学び取る。

メニュー：

山菜ごはん (ワラビ、タケノコ)
キノコ汁 (天然乾燥シイタケ)
おかず 酢ワカメ
山ウドのキンピラ
キャラブキ
イタドリの胡麻和え
天ぷら (ウド、フキの葉、セリ、イワシ)
デザート トコロテン (クロミツ)
飲み物 柿の葉茶



配膳の様子

本活動は恒例になりました「いただきます」からのスタートです。ご飯とみそ汁は給食のように前に取りに来て頂きますが、その他はすべて配膳しています。天ぷらもできるだけ温かいものをと調理講師の栗

山先生のご配慮です。時間いっぱいまで掛けて揚げてくれました。

食す I のメニューも初夏の香りがいっぱいです。食材はきれいな海岸、府内の山奥採集の山菜や野草です。その時期を違えずにきちんと採集し、適切な保存をしておかなければおいしい自然食にはなりません。この活動は4年目になりましたから、食材保存の問題点や課題をクリアーして、新鮮なものと同等の材料となりました。

今回の目玉は昨年から登場しました「イタドリの胡麻和え」です。山ウドのキンピラもウドの香りが初夏の味を引き立ててくれます。セリもこの時期になりますと春の光をいっぱい浴びて草丈も高くなり、柔らかくておいしい食材になります。



当日のメニュー

事前打ち合わせの機会を持たず、当日の調理からのスタートです。山菜ごはんの用意や、キノコ汁、天ぷらの準備に栗山先生

と川村が自然に作業を分け合い、効率よく準備していきます。食材や準備物に不備があっては取り返しがつきません。当日までに何回もそれらをかき出して用意しました。だから、忘れ物もなく順調です。

いつも栗山先生は天ぷらを揚げてくれます。たいていの材料は山野草ですから、低温でじっくりあげることが大切なポイントだと口癖のように教えてくれます。出来上がった天ぷらは本当においしいです。さくさくとしていて、しかもぱりぱりせず材料の味が完全に残っています。これは妙技としか言いようがありません。



食事の様子

今回、事前に用意したメニューは、山ウドのキンピラ、キャラブキ、イタドリの胡麻和えです。その他は当日早くから料理したものです。ただし、トコロテンは3日前に用意していましたが、なかなか固まらず、1日前にやり直したものを用意しました。

当日の実習はトコロテンを作ります。デザートとして、食してからお持ち帰り用を作るのです。水2リットルにテングサ40グラムを煮立てていきます。やや固めの基

準です。ご家庭で作られる時は水2リットルに対して、テングサ25～45グラムの範囲で30～40分煮たてるといいでしょう。

栗山先生から、本日のレシピの説明がありました。川村から、使用した自然の食材についての説明、類似の危険な植物の紹介などして、終了しました。

(川村 甚吉)

二色の浜 稚魚放流

日時：2012年6月16日(土) 14:00～15:00

場所：二色の浜

参加者：34人+スタッフ8人

あいにくの雨模様で、少なめの参加者でしたが、その分、一人でたくさんのヒラメの幼魚を放流体験することができ十分に堪能されたようでした。放流したのは約600匹。このヒラメたちは今年の2月3日に生まれ、岬町の大阪府栽培漁業センターで育てられたものです。



栽培漁業について解説を受ける

はじめにセンターの森場長、内田廉さんから栽培漁業について説明頂きました。それから、金魚すくいならぬヒラメすくいの要領で、各自でヒラメをバケツにすくってもらったのですが、子供たちにとってはこれが結構楽しいようでした。そのバケツを波打ち際まで運んで、「大きく育てね」との願いを込めて放流しました。



ヒラメ幼魚の放流

(山田 浩二)

館長コーナー

遊学館に想うⅡ

自然遊学館の所属が変わりました

今年春から、自然遊学館は、貝塚市教育委員会・教育部・社会教育課に配置換えです。今までは都市政策部・都市計画課に所属していましたので大きな配置換えとなりました。

仕事の内容は同じで以前と変わりありませんが、社会教育に貢献するための施

設として期待されることとなります。

市民の方への貝塚の自然に関する情報提供はもとより、自然環境への興味・関心を高める行事や出前講座などを今まで以上に行い、貝塚市の環境教育の拠点となるよう努めていくこととなります。

来館者

自然遊学館の来館者は、平成 23 年度の記録によると、年間約 6 万人の来館者がありました。毎年 6 万人以上の来館者があり、単純に一日当たりの人数を計算すると約 200 人ということになります。特に春（5 月 6 月）や秋（9 月 10 月）が多く、冬（1 月 2 月）は少ないです。その内訳は、個人で訪問される方が圧倒的に多く約 57,000 人、団体見学は約 3,000 人です。



団体見学（絶滅危惧種と外来種特別展）

団体見学では貝塚市内外の教育施設や公共団体、そして、民間の教育支援団体や研究会などの見学が多いです。

出前講座

近木川河口や二色の浜での実習の講師依頼が増えています。更に、貝塚市内の小

学校への出前授業も増えてきています。最近、遊学館の年間行事を知り、同じ内容の実習体験の講師依頼をされることも何件かあります。

特別展

特別展示では遊学館から貝塚の自然を沢山発信できるようにしています。

昨年度初めての試みとして 2011 年の出来事展を行いました。身近に起こった出来事を 1 年間振り返り、展示してみました。以下に 2011 年の出来事展を訪れた方々の感想をまとめてみました。

来館者の感想より

一番気になったことは感想に館内展示物（生き物）の絵を描いたものが多くありました。（いたずら書きと分かるものは除き）これは小学校入学前の幼い子が大人とともに来館し、その気持ちを絵にして描いてくれたものと考えました。

感想の中の言葉（キーワード）ベスト5は、『また来たい』『スゴイ』『面白い』『良かった』『ビックリした』でした。これらの言葉は遊学館への素直な評価だと思われました。他に『こわかった』、『ありがとう』、等の言葉も多くありました。これらは、遊学館に来て標本や展示写真を見て良かった、来館して満足したということだととらえました。

『気持ち悪い』『いたずら書き』『面白くない』などの表現もいくつかありましたが、その否定的な言葉の総数は全体の 4%でした。この数字はゼロであるほうが良いのですが、生き物の苦手な人も訪れたでしょう。

来てみてがっかりして人もいたでしょう。そのような正直な気持ちを書いてくれたものと評価しました。

他に『(展示作品のような) 写真を撮りたい』や『自然を大切にする・向き合う』、『気を付けて観察してみよう』、『もっと自然を感じたい』、『さわれた』、『勉強になった』、『嬉しかった』、『身近に感じた』など称賛の表現も多くありました。これらは遊学館を良い施設として評価してくれていることになります。



特別展（2011 年遊学館の出来事展）

以上をまとめると、自然遊学館は、専門的な知識を持つ人たちが集まり貝塚の自然を語る場所では無く、展示されている生体や剥製、更には画像や文書資料などが、訪れた人に満足感や喜びを与えているということが言えると思います。さらに、『また来てみたい』の感想が多いのは、入館料は無料であり、小さな施設なのに、展示内容の中身が濃く、よく吟味された意義のあるものが多い、それで、何度も遊学館を訪れてしまう。そして、展示物を見る過程の中で、自分の中の自然に対する（保守・保

 **調査速報**

千石荘昆虫調査 (2012年4-6月)

2012年4月10日

春先に気温が低く、今年のサクラは遅いと言われていました。昨日から気温が一気に上がり、千石荘のサクラも今が満開のようです。田んぼの周りでは、ハコベ、ナズナ、ホトケノザ、オオイヌノフグリ、ウマゴヤシといったお馴染みの植物の花も出そろいました。ツクシは食べるのにはやや時期が過ぎてしまい、スギナが少し伸びていました。そんなスギナの近くにさっそくスギナハバチがやってきました (図1)。



図1. スギナハバチ

鳴き声をするのは、林縁の草むらではカヤヒバリ、池のそばではキンヒバリです。いずれも体が小さく鳴き声もか細いものです。草の深い場所にいるので、写真を撮るのは至難の業です。林縁ではアケビの花が美しい花を咲かせていました。いろいろな植物が虫に来てもらう準備を終えたのに、まだまだ虫は少ない状態です。雑木林の中で落葉に溶け込むクロコノマチョウの写真を撮ることができました (図2)。

全も含めた) 敬愛の意識が高まってくる、さらに、訪問した人の幼少のころの懐かしさを呼びもどすことから、安らぎを得ることができる場所となっているからではないでしょうか。

昨日 (平成24年6月30日) 終了した絶滅危惧種と外来種の特別展でも同じような感想が寄せられています。正確な分析はまだ行っていませんが、機会を改めて紹介したいと思います。

お知らせ

近木川河口に汽水ワンドが11月に完成する予定です。遊学館では汽水ワンドの干潟形成と自然再生の経過観察を行う予定です。興味のある方は一緒に観察しませんか。



矢板撤去の様子撮影 (2012. 4. 19)

(高橋 寛幸)



図2. クロコマチョウ



図3. アケビコノハ幼虫

2012年5月16日

先月のことを思うと、昆虫の種数も植物の緑の「量」も、一気に増えました。植物の緑に勢いを感じます。その緑色の濃淡は実に様々で、それは多くの植物が混在していること、逆に言えば、1種類の植物が競争で他種を完全に圧倒していないことを示しています。「なぜか？なぜそうなるのか？」と思った貴方は、ぜひ研究者になって下さい。

チョウ類は4月に3種だったのが、5月は11種になりました。ガ類の幼虫も目立ちます。千石荘にはアケビとミツバアケビが多く、お馴染みのアケビコノハというヤガ科の幼虫も簡単に撮影できます(図3)。どこが本当の頭か分かりますか。写真の右上が頭で左下が尻です。腹部の背側にある目玉模様と全体のポーズで、きっと何かをだまそうとしているに違いありません。

ケヤキの幹に生えたハカワラタケにヒメオビオオキノコが10個体ほどたかっていました(図4)。それで昨年の6月に撮影しながら飼育に失敗した幼虫が本種であることがほぼ分かりました(図5)。



図4. ヒメオビオオキノコ



図5. たぶんヒメオビオオキノコ幼虫
(2011年6月撮影)

2012年6月7日

田植えの作業中でした。広くなった水面の上では、ツバメがスイスイと飛んでいます。夏も間近という感じです。チョウ類は13種に増え、ヒメジョオンの花で吸蜜している姿を多く見ました。蜜を吸う昆虫にとっては、外来種とか在来種は関係ないのでしょう。



図6. ヒメトラハナムグリ

そのヒメジョオンの花には、ヒメトラハナムグリも来ていて、体中の体毛に花粉をいっぱい付けていました。チョウ類よりもヒメジョオンの受粉に大いに役立っていて、良い「お客さん」だと思います。

雑木林のクヌギでは樹液がすでに出ていましたが、まだクワガタムシが来た形跡はありません。お馴染みのハチモドキハナアブも1匹ただけで、まだまだ夏本番とは行かないようです。

(岩崎 拓)

泉州生きもの情報

シロヒナノチャワンタケ

2012年4月13日、和泉葛城山の昆虫調査に出かけた際、山頂の石段脇でブナの殻斗に生えるシロヒナノチャワンタケを見つけました(図1)。手前の殻斗には多数生えていて、奥の殻斗には少し生えています。



図1. シロヒナノチャワンタケ

館に持ち帰って「茶碗」を撮影してみました(図2)。長い柄でも4mm程度なので分かりにくいのですが、写真の左側で毛の生えた茶碗が確認できると思います。



図2. シロヒナノチャワンタケ(拡大)

珍しいものかという点、図鑑には「ごく普通」と書かれています。石段脇でも落ちたブナの殻斗に少なからず生えていました。ごく普通のキノコの話をもう一つ。



図3. ヒラタケ（ブナ倒木上）

同日、登山道Aコースのブナ倒木上で、旨そうなヒラタケを見つけました。絶品の味なのでしょう。でも、食べる気がしないのです。なぜかと言うと、昨年の秋に毒キノコのツキヨタケを見つけた倒木のまったく同じ位置に同じように生えていたからです。

何を心配しているのかと言うと、倒木内でおそらく充満しているであろうツキヨタケとヒラタケの菌糸の間で交雑が起こり、毒素を作る遺伝子がツキヨタケからヒラタケへ受け渡されているかもしれません（当館の保田顧問からは、「そんなことはない」と一笑に付されましたが）。

それで肝心の昆虫はと言うと、ヒオドシチョウ、ルリシジミ、コマルハナバチ、ニホンミツバチなどが見られた程度で、まだまだ山頂は春景色とはいきませんでした。

（岩崎 拓）

腹びれの無いグレ

2012年4月のある日、「腹びれの無いグレって珍しいんですか？」と、来館者から質問がありました。和歌山で釣られた魚で、現物は食べてしまったとのことで、画像を見せて頂きました。画像（図1）を見ると、比較のため正常な個体と並べて写っていますが、確かに右側の個体には腹びれがなく、おなかがつるつとしています。

グレ（標準和名 メジナ）は展示海水水槽でレギュラーとっていいほど常に入っている魚なので、今まで数多く目にしてきましたが、腹びれの無い個体というのは記憶にありません。そこで、多くの魚を調査している大阪府立水産技術センターの方々にお尋ねしてみたところ、「天然で腹びれの無いメジナが見られるのは聞いたことがありません。人為的に腹びれを切除した跡もないので、腹びれの形成されない奇形ではないでしょうか。」との見解でした。生存競争の厳しい大海原で、腹びれの無い個体がよくぞここまで大きく育ったなあと思います。



図1. 腹びれの無いメジナ(右)

（山田 浩二）

◆寄贈標本の紹介

以下の方々より標本を寄贈していただきました。お礼申し上げます。

(※2012年6月分まで)

<鉱物・砂>

- ◆飯田政治さんより
中国の黄砂 1瓶
シルクロード博の際に入手
- ◆藤浦淳さんより
水晶群晶 2点
和歌山県 2012年5月27日採取

<植物>

- ◆匿名希望さんより
カヤラン 落下株
和泉葛城山登山道 2012年4月5日採集



カヤラン開花 (2012. 4. 20)

カヤランはラン科の着生植物で、根が枝に張り付くようにして、ぶら下がっています。おそらく4月3日の強風で寄主植物の枝ごとが落ちたのでしょう。それを自然遊学館に持って来ていただ

きました。ミズゴケのマットで水分を不足させないように育てると、4月20日に可憐な花を付けました。

<鳥類>

- ◆飯田政治さんより
コガモ 死体1点
近木川河口 2012年1月10日採集
ムクドリ 死体1点
泉南市りんくう南浜
2012年5月30日採集
キアシシギ 死体1点
阪南市尾崎 2012年5月31日採集
ムクドリ 死体1点
泉南市りんくう南浜
2012年6月6日採集
カワラヒワ 巣1点
貝塚市二色の浜 2012年6月8日採集
スズメ 死体1点
阪南市貝掛 2012年6月11日採集
スズメ 死体1点
泉南市りんくう南浜
2012年6月13日採集
- ◆河野通浩さんより
メジロ 巣2点
阪南市緑ヶ丘 2012年4月7日採集
- ◆川田りせ、大野ゆうめ、金山ももか、とよだありさ、さとうひなこさんより
スズメ 死体1点
貝塚市二色 2012年5月17日採集
- ◆荒木陽介さんより
ドバト 死体1点
貝塚市脇浜 2012年5月18日採集

<爬虫類>

- ◆つじゆうと・みのゆたかさんより
アオダイショウ 脱皮殻 1点
貝塚市二色 2012年6月5日採集
- ◆飯田政治さんより
ヤモリ 生体 1点
阪南市箱作 2012年6月15日採集

<魚類>

- ◆千地芳樹さんより
ヨロイメバル 生体 1点
貝塚市二色運河 2012年4月14日採集
- ◆かとう将太・木村統也さんより
チチブ 生体 3点
トビヌメリ 生体 1点
イシガレイ 生体 2点
近木川河口 2012年5月7日採集
- ◆寺田彩人、山下明、山下陽さんより
カワムツ 生体 3点
オイカワ 生体 1点
貝塚市蕎原 2012年5月27日採集
- ◆覚野信行さんより
イダテンギンポ 生体 6点
ハオコゼ 生体 1点
カサゴ 生体 1点
泉佐野市マールビーチ
2012年6月3日採集
- ◆渡辺怜真さんより
コモンフグ 生体 1点
貝塚市二色運河 2012年6月10日採集
- ◆ボーイスカウト貝塚第2団より
トウゴロウイワシ 生体 2点
ゴンズイ 生体 1点
貝塚市二色の浜 2012年6月24日採集

<軟体動物>

- ◆渡辺久和さんより
ヤマタニシ 生体 1点
貝塚市木積 2012年5月4日採集
- ◆覚野信行さんより
クロシタナシウミウシ 生体 1点
泉佐野市マールビーチ
2012年5月5日採集
- ◆岸和田市立光陽中学校科学部より
ヒバリガイ 生体 1点
マツカゼガイ 生体 1点
ムラサキイガイ 生体 5点
泉佐野市マールビーチ
2012年5月5日採集
- ◆かとう将太・木村統也さんより
アサリ 生体 1点
近木川河口 2012年5月7日採集

<棘皮動物>

- ◆覚野信行さんより
イトマキヒトデ 生体 1点
泉佐野市マールビーチ
2012年6月3日採集
- ◆上原政一さんより
パイプウニ 1点
沖縄県石垣島 2012年5月9日採集

<甲殻類>

- ◆林 祐希さんより
ハマガニ 生体 1点
クロベンケイガニ 生体 1点
近木川河口 2012年4月13日採集
- ◆生長正勝さんより
イボイチョウガニ 1点
貝塚市二色の浜 2012年4月27日採集

◆岸和田市立光陽中学校科学部より

トゲワレカラ 1点

泉佐野市マーブルビーチ

2012年5月6日採集

◆渡辺怜真さんより

イシガニ 生体1点

(サンカクフジツボ8点付着)

貝塚市二色運河 2012年6月10日採集



サンカクフジツボの付着したイシガニ

◆宇野遼・宇野剛・坂本稜介さんより

イボイチョウガニ 生体2点

貝塚市二色の浜 2012年6月18日採集

◆岡村親一郎さんより

シャコ 生体2点 (コフジガイ付着)

大阪湾尾崎沖 2012年6月19日採集

◆ボーイスカウト貝塚第2団より

イボイチョウガニ 生体2点

貝塚市二色の浜 2012年6月24日採集

<クモ>

◆飯田政治さんより

アシダカグモ属の一種 幼体1点

阪南市箱作 2012年6月15日採集

<昆虫>

◆食野俊男さんより

スミナガシ 成虫1点

ジャノメチョウ 成虫1点

和泉葛城山山頂 2011年8月23日採集

トビモンオオエダシヤク 成虫1点

貝塚市木積 2012年4月24日採集

ハラビロトンボ 成虫1点

貝塚市木積 2012年5月13日採集

ウスギヌカギバ 成虫1点

和泉葛城山山頂 2012年5月29日採集

◆森本静子さんより

カンムリセスジゲンゴロウ 成虫2点

貝塚市二色 2012年4月14日採集

メミズムシ 成虫1点

貝塚市二色 2012年6月9日採集



カンムリセスジゲンゴロウ

◆森田紳平さんより

アマミノコギリクワガタ F₂成虫6点

奄美大島 2009年7月採集(→累代飼育)

◆五藤武史さんより

ヒゲナガオトシブミ 成虫14点

貝塚市蕎原 2012年5月7日揺籃採集

2012年6月1日羽化

貝塚市蕎原 2012年5月14日揺籃採集

2012年6月4~7日羽化

オオオサムシ 成虫1点

貝塚市馬場 2012年5月17日採集

イチゴハナゾウムシ 成虫 1点
ヒメカメノコテントウ 成虫 1点
堺市浜寺公園 2012年6月4日採集
ヒゲボソゾウムシ属の一種 成虫 1点
貝塚市蕎原 2012年6月13日採集
ネキトンボ 羽化殻 1点
貝塚市木積 2012年6月13日採集
イチゴハナゾウムシ 成虫 4点
堺市浜寺公園 2012年6月13日採集
ムラサキシジミ 成虫 1点
堺市鉢ヶ峰寺 2012年6月14日採集

◆田和樹さんより

ゴマダラカミキリ 成虫 1点
貝塚市二色 2012年6月6日採集

◆飯田政治さんより

ウンモンズズメ 成虫 1点
阪南市箱作 2012年6月14日採集
スズバチ 巣 1点
阪南市箱作 2012年6月15日採集
コシアキトンボ 成虫 1点
阪南市貝掛 2012年6月15日採集
ナミアゲハ 成虫 1点
阪南市貝掛 2012年6月29日採集

<寄贈写真>

◆上仁敏之さんより

腹びれのないメジナ
2012年1月8日撮影

◆鈴子佐幸さんより

ホソミオツネトンボ 成虫 1点
シオカラトンボ 成虫 1点
ギンヤンマ属 羽化殻 1点
ヒゲナガハナノミ 成虫 1点
キチョウ 成虫 1点
ヒメウラナミジャノメ 成虫 1点

ベニシジミ 成虫 1点
ホオジロ 1点
ツバメ 1点
貝塚市馬場 2012年4月30日撮影



ヒゲナガハナノミ交尾(左がオス)
(撮影: 鈴子佐幸)

◆濱谷巖さんより

トベラキジラミ 脱皮殻 45点
岸和田市別所町 2012年3月26日撮影

◆喜多理恵さんより

ヨツボシトンボ 成虫 1点
貝塚市馬場 2012年5月16日撮影



ヨツボシトンボ
(撮影: 喜多理恵)

ノシメトンボ 成虫 1点

岸和田市河合町 2012年6月24日撮影
シオヤトンボ 成虫 1点

岸和田市河合町 2012年6月26日撮影

◆自然遊学館わくわくクラブより

ツマミタケ 1点

岸和田市河合町 2012年6月17日撮影
(同定：佐久間大輔さん)

<鳴き声情報>

◆飯田政治さんより

ハルゼミ

2012年5月8日、二色の浜クロマツ林
ニイニイゼミ

2012年6月24日、阪南市貝掛

 スタッフ日誌

4月1日、自然遊学館から徒歩1分近くの場所にあった関空交流館は、今年度は「自然遊学館特別展示会場」として、ご利用いただくことになりました。

春には、「切り絵展」と「貝塚市の絶滅危惧種と外来種展」を開催し、夏には「プランクトン展」、秋には五藤武史氏による「赤トンボ写真展」と自然遊学館わくわくクラブによる「カタツムリ展」、冬には「2012年の出来事展」を開催する予定です。ご来場をお待ちしています。

なお、火曜日が休館日の自然遊学館本館と異なり、特別展示会場は火曜日のほか、水曜日と木曜日にも休館になります。月、金、土、日曜日の開館日は、午前10時から12時、午後1時から5時の開館となります。ご注意ください。(スタッフ一同)

5月21日、金環日食の朝、外は確かに少し暗くなりましたね。コンビニで買った500円の紹介冊子の付録グラスでもリングははっきりと見えました。照度計などの機材もないので、館内で飼育している動物たちの反応を見ることにしました。アカネズミは寝たまま、ウナギは筒に入ったまま、海水魚と淡水魚たちは「早く餌をくれ」とアピール、・・・、いつも通りでした。外の「暗さ」を撮影したはずの画像も、出来はというと30点程度でした。(岩)

6月6日～7日、貝塚市立第一中学校の男子生徒4人、田和樹さん、深江琢司さん、山下顕心さん、湯地道士さんが、職業体験で遊学館に来ました。館で飼育している魚やカエルの餌やり、水槽そうじ、トンボの池でのザリガニ除去、展示植物の採集、近木川河口での観察会の補助スタッフなど、さまざまな仕事を体験してもらいました。4人とも熱心に取り組んでくれたので、とても助かりました。彼らの感想文を読むと、楽しそうに見えて辛い仕事もあれば、しんどそうな中にも楽しみが持てる仕事もあることが分かってもらえたと思います。ご苦労さまでした。(スタッフ一同)

6月24日、貝塚ボーイスカウト第2団が二色の浜で地曳網を行うとのことで、同行してきました。幅約8mの小さな地曳網でしたが、アナアオサが大量に網に入り、引き上げるのが大変でした。しかし、ウナギをはじめ、たくさんのメジナの幼魚など魚類10種や、イシガニも多く入った豊漁に隊員たちは大盛り上がりでした。(浩)

お知らせ

2012 夏期特別展

「海洋・淡水プランクトン」開催中！

会期：2012年9月23日まで

(月・金・土・日曜日 10:00～17:00 開催)

場所：自然遊学館特別展示会場

貝塚市在住の上田稔さんが1960年代から1970年代にかけて採集し撮影した大阪湾や和歌山沖の海洋プランクトンや大阪の淡水プランクトンを紹介します。

また、2007年度に上之山賢治さんと自然遊学館の共同で行った近木川微生物調査の結果もあわせて紹介します。



夏休み自由研究相談 受付中！

場所：自然遊学館

期間：2012年8月26日まで

夏休みの自由研究で生きものについて調べたい方、採集した生きもの名前、標本の作り方、レポートのまとめ方が分からない方など、当館のスタッフがお手伝いし

ます。相談に来られる方はあらかじめ電話でお申し込みください。

行事案内

9月8日 バッタ調べ・鳴く虫

9月15日 近木川河口の生きものと遊ぼう

9月29日 近木川のアユを調べよう

詳細は貝塚市広報、ホームページでご確認下さい。
参加申し込みは以下まで。

* 自然遊学館だよりのバックナンバーは、
下記のホームページよりご覧いただけます。

自然遊学館だより 2012 夏号 (No. 64)

貝塚市立自然遊学館

〒597-0091

大阪府貝塚市二色3丁目26-1

Tel. 072 (431) 8457

Fax. 072 (431) 8458

E-mail: shizen@city.kaizuka.lg.jp

<http://www.city.kaizuka.lg.jp/shizen/>

発行日 2012. 8. 15

この小冊子は店内印刷で作成しています。